

チェルノブイリ通信

チェルノブイリ支援運動・九州

事務局：北九州市小倉南区徳吉東1丁目13-24

TEL/FAX 093-452-0665 深江 守

No. 1
1990.8.10



動きだしたチェルノブイリ支援運動

六月二八日に行なわれた九電株主総会終了後、チェルノブイリ原発事故により被災した人びとに対する支援運動を、九州でどのように取り組むかについての話し合いを持ち、以下の内容を確認し支援運動をスタートさせました。

一、会の名称と性格

会の名称を「チェルノブイリ支援運動・九州」とする。年齢、性別、国籍に関係なく、一口千円で入会でき、その期間は一年。九〇年七月から九一年六月までで、各地支援組織・運動のネットワーク的性格を持つ。

二、会の運営

- ①、世話人・・・各地に連絡窓口を設け、会の世話人とする。
- ②、事務局・・・会計、名簿の管理、情報収集、各地との連絡事務、通信の発行等の実務を担当する
- ③運営委員会・・・世話人と事務局で随時開催し、会の運営、募金等の

用途について確認する。

- ④監査人・・・会計とは別に監査人を設け、募金の監査を行なう。

三、会の活動と目的

会の活動としては、緊急の援助を要する白ロシアやウクライナをはじめとしたソ連邦や東欧諸国の人々に必要な援助物資を送るために救援基金を設立し、募金を募り、現地の信頼できる救援組織に送ることです。そのためにも現地の救援組織と直接連絡を取るなどして情報を収集します。

四、当面の活動

- ①現地の詳しい情報を収集し、ニュース等で知らせる。
- ②募金を呼びかけるチラシ、パンフレット等を作成する。
- ③現地救援団体と連絡を取る。
- ④会員を広く募る、他。

以上の内容を確認し、支援運動がスタートしました。九州全体での最初の取り組みとしてあった、松岡信夫さん

の講演会も無事終了し、各地から様々な反応が寄せられました。また、支援運動への入会の申し込みや募金の方も毎日のように寄せられるようになり、運動の手応えの方も少しずつではありますが感じています。とは言ってもまだまだ始めたばかりであり、何をどうしているのか分からないことばかり、というのが実状です。

第一回、運営委員会を開きます。

多数ご参加下さい！

運営委員会というのは、事務局と各地連絡窓口担当で構成することになっていますが、限定している訳ではありません。会員であれば誰でも参加できます。ふるってご参加ください。

今回話し合う内容は、① 現在集まっている募金（一次集約分）の取り扱いについて。② 今後の取り組み、運動の進め方について、となっています。（その他、何か提案がありましたら事務局までご連絡ください。）

募金の取り扱いですが、現金を送金する方法と救援物資を送る方法があります。また、送金先も現地の救援団体に直接送る方法や、第三国経由（東ドイツ・パトモス教団など）で送る方法などがありますが、現在各地の救援グループはいま、直接現地のグループに連絡を取り、独自の窓口を作りつつあります。（八月一二日、先日ソ連から帰国してきたばかりの写真家の広河隆一さんを囲んで、今後の支援運動のあ

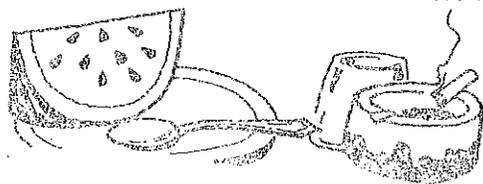
り方を話し合う交流会が予定されており、ある程度の方向性が見えてくるかもしれません。ちなみに私（深江）と反町さんの二人で行ってきます。）

また、松岡さんの講演会の中でいくつかの要望が出されました。その一つに、白血病で苦しむ子供たちを一人でも二人でも日本に呼び、治療を受けさせるような運動はできないだろうか、というものです。あるいは、ヨーロッパ各国が取り組んでいるホームステイ運動のような。

白血病の治療に関していえば、治療費だけで一人当たり三〇〇万から五〇〇万ぐらいかかるらしく、その後の追跡治療のことも考えれば、余り効果的ではないという指摘を受けました。それよりも、現地の医療機関と連絡をとりあい、日本で何ができるのか、など役割分担的に考えたほうが効果的ではないだろうか、というものです。いずれにしても、日本の医療技術を頼ってきている現実を考えれば、この問題は政府に対する働きかけとして、考えていく必要があるのではないのでしょうか。

こうした問題を話し合うために、第一回運営委員会を八月一九日（日）、午後二時から九州キリスト教会館（福岡市中央区舞鶴）で開きます。是非、ご参加ください。また、参加できない方でご意見のある方は事前にご連絡ください。よろしく願います。

（深江）



お疲れさまでした、松岡さん

共に頑張りましょう！

チェルノブイリ支援運動・九州では、この三月にソヴィエトを訪問して被曝者の方々の話などをつぶさに見聞されてきた松岡さんをお招きし、九州各地で現地の実状をお話していただきました。（7月14日の福岡を皮切りに24日の北九州まで、わずか11日間に1.0カ所以上を回るという強行日程でした。お忙しい中、また暑い中を本当にありがとうございました。）

ここでは7月24日に北九州で行われた講演会の内容を私（反町）なりにまとめてみました。（『北九州かわら版』に掲載したのと一部重複する部分がありますが、お許してください。）

（1）チェルノブイリの子どもたち

松岡さんが開口一番言われたのは、子どもたちのことでした。各地で講演をしていると子ども連れの聴衆がいて、会が始まる前など子どもが騒ぐのだそうです。そういう子どもたちが笑ったり、走り回ったりしているのを見るとホッとするというのです。ところがチェルノブイリの子どもたちには笑顔がありません。ある母親の手紙にはこんなふうに書かれています：「子どもたちを見ると本当に悲しくなる。まだ十になるかならないかの子どもたちはもう年老いてしまった。子どもたちの話題は何かというと死ぬことです。」この子どもたちは笑いを失い、泣くこ

とさえも失っているのです。（後に続く）

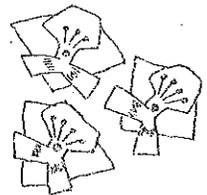
（2）チェルノブイリの現実

想像していたよりもはるかに深刻です。最もひどい汚染を受けたのがウクライナ、白ロシア、ロシア共和国の一部でした。噴き出した放射能の量についていくつかの数字が出されています。正確な数字は今のところまだわかりません。松岡さんと話した一人のロシア人はヒロシマ原爆と比較して次のように語ったそうです：「チェルノブイリ4号炉からとびだした放射性物質の量はヒロシマ原爆の90倍です」と。これは控え目な数字で、別のロシア人科学者は「300倍から350倍」と言っているそうです。

松岡さんたちが会ったソ連の科学者や医者たちはヒロシマ・ナガサキとの比較において、次の2点を強調しました。

①原子炉から放出された死の灰は、原爆で放出された死の灰に比べてはるかに種類が多いこと

②ヒロシマ・ナガサキでは外部被曝が主であったのに対し、チェルノブイリでは内部被曝が多いこと



特に②の点は重要で、チェルノブイリでは避難が遅れたことを表しています。事故が起こったのは4月26日(土)の真夜中・午前1時53分、避難が行われたのがそれから36時間後の27日(日)午後2時でした。政府当局は事故があったことを住民に知らせなかった。人々は26日の土曜日、町に出て買物をして、ふりそそぐ放射能を浴びてしまったのです。政府がすぐに事故を知らせなかった理由は2つ推測できます。一つは、原子発電所当局が事故を大したものとは思っていなかったこと(事故後12時間近く「原子炉の爆発はありえない」と信じていた：詳しくはメドページェフ著『内部告発』を参照のこと)、もう一つは警察の治安上の理由です。こうして、事故があったことを知らせずに、5万人のプリピャチ市民を放射能に曝すことになりました。さらに30Km圏内に住む7~8万の人々を数日から数週間後避難させたが、彼らはほとんどが農民で農作業をしていた。その間、風で舞い散る放射能を体の中に取り込んでしまったのです。

(3) 白ロシアの抗議行動

原子炉から放出された放射能の7割は白ロシアに降りました。ソ連政府の発表によると、汚染地域にいまなお400万人の人が住んでいるといます。400万というと福岡県の人口より少し少ないくらいです。そのうちの200万人が白ロシアに住んでいます(白ロシアの人口が1000万人)。200万のうち、子供が80万人です。ま

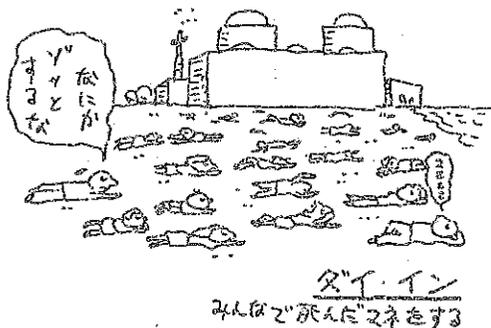
た、ソ連政府と白ロシア議会の公式発表によれば、特に汚染がひどく、一日も早く立ち退かなければいけない地域(セシウム137の汚染密度が1平方Kmあたり1.5~40キュリー)に16万人が住んでいます。(一般にソ連政府が発表する数字は実際よりかなり小さいのが普通だから実際はもっと多いと思われる)

最も汚染レベルの高いところのひとつである白ロシア南部のクラスノポリエという町で、親たち・教師たち・医師たちの3者連名の白ロシア共和国政府にあてた手紙が公表されました。

「われわれは汚染度が高い地域に住んでいる。そのことがわかって以来、ここから移住させてほしいと数回にわたり政府に要望してきた。しかしわれわれの要望はこれまで無視されてきた。この手紙は最後通牒である・・・もしどうしても住民をこの地域から立ち退かせることができないのであれば、せめて子供たちだけでも一刻も早くここから移住させてほしい。この汚染地域に子供たちを住まわせているのは、子供に死ねというに等しい。親として、教師として、医者として子供に死ねということは決していえない」という内容のものです。「もしもこの最後の手紙が聞き届けられないならば、われわれは首都ミンスクへ行って政府の建物の前にテントを張り、ハンストと抗議の座り込みをする」という決意も語られています。(これらの抗議行為はソ連では命がけの行為です)

こうした声がこのクラスノポリエだけでなく、ゴメリ州、モギレフ州を

の他各地の汚染地域からからあがり始めています。そういう世論の動きを受けて、白ロシア議会でも事故から4年目にしてようやくチェルノブイリ事故処理対策委員会というのが設置され、とりあえず二千数百世帯をできるだけ早く移住させることが決められました。が、いつ・どこに移住させるかについてはまだわからないし、200万中の他の人々については何も触れられていません。単に世論をなだめるためとしか思えません。



◎いったいなぜ、4年間も放置されてきたのか？

もし九州で、ある原発が事故を起こして400万人が住む地域が汚染されたら、その人たちをどこに移住させたらいいんでしょう？

400万人といえば大分・熊本・宮崎の3つの県を合わせた人口に相当します。福岡県の人口の80パーセントです。これはソ連だからできないんじゃないで、日本で起こったっておそらく不可能ですね。

ソ連政府発表の（これも控え目な）数字ですが、放射能汚染によって放棄

された農地の面積が約14万ヘクタール、放射能汚染によって放棄された森林の面積が約49万ヘクタール、合わせて63万数千ヘクタールにのぼるといいます。これは大分県の面積に相当します。大分県全体に当たる土地を放棄させ、なおかつ400万の住民を移住させることは日本においても不可能でしょう。

ソ連においては、さらに経済的にも困難＝不可能です。白ロシア共和国政府が今年の4月に議会で発表した数字によると、人間の生命とか健康とかは金銭に換算できないので除外して計算すると、今日わかっているだけで820億ルーブルの損失が出たといっています。現在の公式レートである1ルーブル＝260円（実勢レート＝闇レートでは1ルーブル＝26円だが）で計算してみると20兆円ぐらい、日本の国家予算の3分の1です。白ロシア共和国の年間予算の8年分に当たるそうです。

避難させることができないのです。原発は国家が作ったものだから、それが事故を起こせば当然その責任は国家にかかってきます。国が移住させ、移住先の福利厚生施設の面倒も見ないと責任を果たせない。すでに30キロゾーンから避難した人だけでも13万人います。ものすごいお金がかかっているわけです。さらに400万人の人を立ち退かせないといけないのです。国家予算の何年分が必要になるかわからない。破産してしまっているのです。だから住民がいくら抗議の声をあげてもない袖はふれないというか、見捨てられるだけです。

では日本で事故が起こったら、電力会社は率先して住民を助けてくれるでしょうか？ 何よりも保険会社が原発事故については戦争や地震と同じ扱いをして保険金を払わないことになっています。単なる民間電力会社の手に負える問題ではないでしょう。

事故の被害の全体像はまだ明らかになっただけではありませんが、少しずつ事実が明かにされてきています。『今日のソ連邦』というソ連政府の宣伝雑誌がありますが、今年の4月号は突然編集内容が変わりました。これまでは事故の真実をなるべく隠そう隠そうとしていたのですが、放射能が動物とか植物とかに与える影響などを明らかにするような写真などを載せるようになったのです。こうした写真をソ連政府の広報宣伝雑誌が載せているのです。また、白ロシア共和国の第一副首相のエフトフという人のインタビューが出ています。被害が深刻で、国家の財政では救済できないということを正直に述べています。

(4) チェルノブイリの子供たち (続き)

このような変化の背景には、なりふり構わず被害者を救済しなくてはならなくなったことがあげられます。今年の4月に白ロシア共和国政府は国連を通じて一通の文書を各国政府に送りました。救済を求める手紙です。それに添付された付属資料には白ロシア共和国の子供たちの状態が書かれています。この資料にはたとえば次のようなことが書かれています：「ミンスクの病院

では白血病の子供が毎週一人ずつ死んでいきます。医薬品、医療設備が足りずに子供たちの命を救えない」と。この文書に、何人かの母親の手紙が紹介されています。

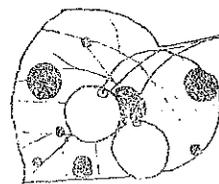
*「小さな娘がいるのだが、食事を作ってやるたびに『自分はこの子に毒を食べさせているのではないだろうか』という不安にさいなまれる」

ソ連の各(共和)国政府は「その(汚染)地域でとれる食べ物は食べな。外側から新鮮な汚染されていないものを送ってやるからそれを食べろ」ということを言っています。それが、缶詰、乾燥食品、インスタント食品でしょう。そういったものを3度3度食べると言っているわけです。朝昼晩、缶詰やインスタント食品を食べ続けることができるでしょうか？ それを1年、2年と続けることが可能でしょうかね？

僕ならできませんね。毎日飲む水とか、お風呂にはいる水とかはどこからもって来るんでしょうね？

400万人分の水を？

政府がいくら持ってきてやるたつてそれは不可能です。そうしたら、自分たちの生命を維持するために、目の前にある食べ物を食べ、水を汲んで飲む、これは当然のことだと思います。



*「4歳の孫娘はガンの手術を受けた。」

*「子供たちが手足の関節の痛みを訴えて泣き叫ぶ声を聞いたことがありますか？」

冒頭の母親の手紙もこの中に含まれていたものです。これらの子供たちを救うために、世界の人々に善意と協力を訴えているのです。

ソ連国内ではもはやどうしようもない。キューバが子供たちを引き取ったり、西ドイツが何千人もの子供たちを招いたりしています。子供たちの気分を変えてやるのが、闘病の手助けになっています。

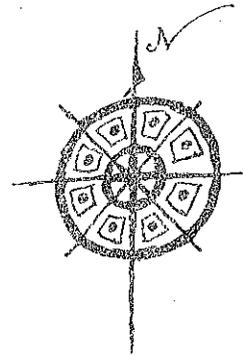
先日開かれたソ連共産党大会で白ロシア共和国選出の女性代議員が次のような演説をしました。事故前の85年から事故後の89年の間にどのような変化が起こったか？。死亡率が4.1倍に増え、視覚障害が3倍に、血管の障害が8倍に、耳鼻咽喉障害が11倍に、甲状腺異常が2倍に増えており、修学前児童のガン死亡率が増え始めています。セシウム137をとっただけでも半減期は30年ですから、今後こういった被害はますます増えこそすれ、減ることはないわけです。子供たちの前にいかに厳しい前途が待っているかを示唆する数字です。

4月に日本にきた放射線医学の専門家のヤコブレフさんという人がいます。彼が言うには医者として全力を尽くすが、難しい問題が2つあるということです。

(1) 人間の免疫機能を低下させるといふ、新しい放射線の影響がわかって

きた。

(2) 『禁則過多』という状況が子供の治療の上で大きなマイナスになっている。禁則過多というのは、要するにあれをしちゃいけない、これをしちゃいけない、と禁止事項が多すぎることです。子供がストレス過剰になり、萎縮してしまつて、閉鎖的になる。これが病気を悪化させるのです。そして、これは医者として直すことができないのがつらいと、ヤコブレフさんは言っていました。



(5) 被曝労働者たち——「チェルノブイリの夜と霧」

『週間文春』（7月19日、26日、8月2日号）で「チェルノブイリの夜と霧」という特集をやっています。ぜひ読んでみてください。事故処理にたずさわった、あるいは処理作業に強制された労働者、兵士などの至極まじめなレポートです。エストニアの被曝者の一人が今年の10月日本にきます。仲間の命を少しでも助けるために医薬品がほしい。日本人が何人かエストニアに行ったんですが、そうしたかれらの要望に応えるために、日本に呼ぶことにしました。また皆さんとも会っていただく機会があると思います。

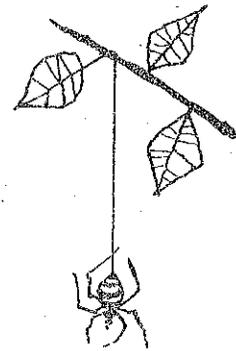
(6) 被害をくいとめるために働いて

27名の墓標がモスクワ郊外にありました。チェルノブイリの犠牲者とも何とも書いてありません。9名か10名は20代の若者でした。

ブラビークという名の24歳の若者は責任感の強い消防隊の隊長でした。彼は事故当日、率先して最も危険の多い地域で消火作業にあたりました。一日一日体が小さくなっていきました。放射能で全身が焼かれ、生きた皮膚は一つも残っていませんでした。生きながら炭化してしまっただけです。死んだときの体重は小さな子供よりも軽かったそうです。

また、エルピラさんの夫はチェルノブイリ原発第1、第2原子炉の副技師長でした。事故の夜、彼は自分の責任範囲外ですが、第4原子炉に駆けつけました。事故の拡大を防ぐために全力を尽くし、放射能を浴びて亡くなりました。エルピラさんは旦那さんがなくなる直前に愚痴をいきました。「あんたは第4原子炉の担当じゃなかったんでしょ。あんたは第1、第2原子炉の副技師長でしょ。事故が起こったときいかなくてもよかったんでしょ」それに対して夫のシチェルコフさんはこう言ったそうです：「わかってほしい。もしあの晩自分たちがあそこに行って最善の努力をしなければ、おそらくウクライナ全部が汚染されて人が住めなくなっただろう。いや、それだけじゃない、もしわれわれが全力を尽くさなかったら、3号炉、2号炉、1号炉と次々と拡大して爆発を起こし、ヨーロッパ

の半分が汚染されて人が住めなくなっただろう。私たちはそれを防ぐために犠牲になったんだ。おそらく人類は、われわれの行為、およびチェルノブイリ原発事故から、きっと教訓を学んでくれるだろう」ということを言い残したそうです。そのことをエルピラさんは頬に涙を流しながら私のノートに書いてくれたんです。つまり、生き残った人類は、チェルノブイリの原発の事故から、「原発という技術を使うべきか使うべきでないか」ということをおそらく判断し選択するであろう、ということを残したんだらうと思います。



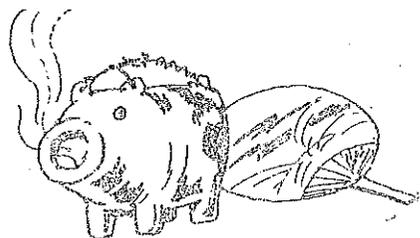
(7) チェルノブイリ救援運動をするにあたって

どのような運動がいいのか、どこにお金を送れば一番役に立つのかということをよく聞かれます。これは私が一番答えにくい質問です。最後に私の小さな経験を申し上げて終わりにします。先ほど申しましたヤコブレフさんというウクライナのお医者さんが日本にこられたときに、一日ヒロシマに行かれました。広島で被曝者の人たちと交流しました。被曝者たちと話し合いをしているときに、その中に何人かのお子さ

んがいたそうです。話が終わると子供たちが寄ってきて、ポケットから小さなお金を集めて、これをチェルノブイリの子供に届けてほしい、と言ったんだそうです。そのときヤコブレフはこう言いました。「あの広島の子供たちは、チェルノブイリの子供たちのことを自分のことのように感じ取った。ぼくは医者としての職業上、人間の不幸にしょっちゅう立ち会ってるから、めったなことでは涙を流さないけれど、このときだけはうれしくて涙が出た。日本にきてよかった」とそう言いました。東京に帰り、ロシアへ帰る前の日、広島の子供たちから、追っかけて封筒を送ってきました。封筒の中に小銭が入ってたんです。子供たちが翌日学校に行つて、友達に話して、小遣いの中からチェルノブイリの子供へのカンパを集めて来たっていうんですね。数えてみたら3千円ぐらいのお金がありました。彼はその3千円のお金をチェルノブイリの子供に持って行きたい、ただしお金を持っていってもしょうがない。新橋の駅の中にコンビニエンス・ストアがあります。彼はそこに入って隅から隅まで30分か40分かけて見て回ったんです。そして最後に、これを買いたいといって、一番安いボール・ペンををいてねいに一本一本選びました。3千円を一銭も残さずにきちんと安いボール・ペンを買いました。30本か40本あったと思います。ヤコブレフは「何十万という被災地の子供には本当に大海の一滴に過ぎないけれども、私が診察を担当している地域の学校の1つのクラスの子供に、これは広島の子供から君たちへのプレゼントな

んだよって渡したい。この一本のボール・ペンが（先ほどいったように）『禁則過多』で萎縮して、内攻して、ストレスのたまっている子供たちにどんなに大きな励ましを与えるかわからない。彼らは、自分から、病氣と戦う勇氣を持つかも知れない」と言いました。私たちも病氣をしたり、怪我をしたり、孤独な状態の中で行き詰まっているような時に友だちや知人から暖かい言葉をかけてもらおうと立ち直るきっかけになることがあります。声をかけた人が意識しているよりもっと大きな励ましになることがあります。同じように、この広島の子供の1本のボール・ペンが大きな励ましをチェルノブイリの子供に与える可能性があるんですね。

私はどういうふう具体的に支援活動をしたらいいのかわかりませんが、私の経験では、ものやお金ももちろん大事で、当然なくちゃいけないけれども、何よりも気持ちが大事だと思います。友情とかあたたかい気持ち、人間らしい気持ちがあれば、子供たちを励ましたり、チェルノブイリの犠牲者（被災者）たちを励ますことができるんじゃないかと思います。ささやかな経験ですけれども、このことが皆さまのこれからの活動に何か参考にいただければ幸いです。



はじめまして、私達が事務局員です。

- 河上 雅夫（甘木市） ・ 某特殊法人関連のコンピュータエンジニアをしています
趣味と実益を兼ね、パソコン通信で入ってくる情報の整理を担当します。
- 福井 寿雄（福岡市） ・ 某大手予備校に勤務。学生時代ロシア語をかじったのが
縁で、チェルノブイリの問題は関心をもっていました。
日ソ図書館との窓口をしています。
- 姉川美和子（福岡市） ・ 自然食のレストランで働いています。一度食べにきてく
ださい。新聞、雑誌等の情報の整理をしています。
- 反町 裕司（北九州市） ・ 某大学でドイツ語を教えています。運動は全くの素人
ですができる範囲で頑張ります。最近、むりやりパソコン
通信を覚えさせられ、少し懲りだしました。
- 安部久美子（北九州市） ・ 会計と名簿の整理を担当しています。同じような仕事を
もう一つ抱えていますので、毎日がパニックです。
- 深江 守（北九州市） ・ いろんな情報がワンサカと寄せられ、整理のしようがな
いと根をあげているこの頃です。事務局のメンバーはみ
んなすごく真面目な人たちばかりで、頼もしいかぎり
です。一年間よろしくお願いします。
- 監査人
小柳 清美（北九州市） ・ 年一回、募金の監査をすればいいということで監査人
を引き受けました。よろしくお願いします。

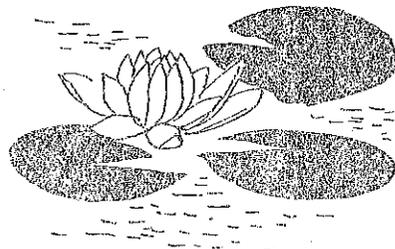
チェルノブイリ支援運動・九州

第一回運営委員会

と き：8月19日、午後2時

ところ：九州キリスト教会館1F
（福岡市中央区舞鶴）

☎ 092・712・6808



チェルノブイリ関係記事

[ザ・デイリーテレグラフ]

1989. 4. 28

スコットランドのシカも依然高い放射能レベル、セシウム(134, 137)のレベルが、政府が安全レベルと定めている、キロあたり1000ベクレルをはるかに越えているという。

[バンクーバーサン] 1989. 6. 26

放射能汚染のソ連国内での広がりには相当広く、このためソ連政府は、個人の放射能レベルを計るため線量計を何千も注文したと発表した。

放射能で汚染された肉や生産物は、日常的に売られており、肉などは売る前に細切れにされ、汚染の低い肉と混ぜて汚染を薄めてから出荷されている。

[ザ・デイリーテレグラフ]

1989. 7. 13

外国人の居住が認められていないクラスノヤルスクは、100万人が住む大都市であるが、ここではソ連やCOMECON加盟国などからの核廃棄物の貯蔵所の建設が、地元や周辺住民の猛烈な反対により中止に追い込まれそうな情勢である。

[共同通信] 1989. 7. 30 出所:タス通信

白ロシア共和国最高会議は放射能による汚染がひどい地域から新たに10万6千人を避難させることを決めた。

[タス通信] 1989. 8. 8

ロングライフミルクとベビーフードを製造する、ソ連で最大の工場を(チェルノブイリからわずか130キロの)ゴーメリに建設する契約がイタリアのFATA食品会社とソ連の機械輸出会社との間で取り交わされた。

[ザ・デイリーテレグラフ]

1989. 8. 15

チェルノブイリ周辺の森で巨大な木々が発見されている。これらは通常よりはるかに大きく、松の針状の葉は、普通より10倍ほど重い。また他の木々も巨大な葉を出しているとのことである。

[AFP通信] 1989. 8. 16 (ポーランド発)

バルト海沿岸の広い地域で放射能の高い汚染がきのこにおよんでおり、塩水で何時間も煮てからでなくては危険過ぎて食べることはできないと警告。

[AFP通信] 1989. 8. 23

1986年のチェルノブイリの原発事故で巨大な、目の見えない鼠や耳の聞こえない猫が生まれるなどの放射能による突然変異が出ているとシンシリーでおこなわれた環境会議でソ連の学者が発表した。

[ザ・デイリーテレグラフ]

1989. 8. 23

食物連鎖の中にチェルノブイリ原発事故による放射能が入りこむのを制限するため、ラム肉についての緊急販売制限が未だにイギリス全土にわたって行われ、8900戸以上の農家に影響が及んだ。

[AFP通信] 1989. 8. 26

「ウラルの核惨事」で知られる、チェルノブイリの原発事故で放出された放射能の2.5倍(1億2千万キュリー)の放射性廃棄物が1949年から1952年まで棄てられていたという湖が埋められようとしている。(ソ連は、チェルノブイリで放出されたのは5千万キュリーだと発表している。)

[ザ・インデペンデント] 1989. 9. 2

チェルノブイリでの奇形植物の発生は長い間噂されていたが、モスクワの環境遺伝子研究所長のシェフチェンコ博士が撮影した写真を公開。

[AFP通信] 1989.9.18

パキスタン政府は、オランダのフリコ社製のスキムミルクをチェルノブイリによる放射能汚染されているとして販売禁止にした。このスキムミルクは、チェルノブイリ事故の2ヶ月後にオランダで作られ、シンガポールに送られたが、シンガポール政府は国内販売を許さなかった。そしてその後、カラチに本社のある会社により、総量にして約500トンが持ち込まれたという。

[北海道新聞] 1989.9.29 夕刊

ウィーンで開催中の国際原子力機関総会はチェルノブイリ原発事故現地に国際研究センター設立の大枠を決定、91年初めの設立を目指す。

[北海道新聞] 1989.10.2 朝刊

ソ連ウクライナ共和国で起きたチェルノブイリ原発事故による後遺症対策の遅れに抗議して、北隣の白ロシア共和国の首都ミンスクで30日、市民ら約1万5千人がデモ行進し、共和国政府庁舎近くの広場で集会を開いた。

[西日本新聞] 1989.10.2 朝刊

断:「ソビエト文化」

ゴメル州ホイニキ地区では今年1月から6月までの間に13人の奇形児が生まれ、うち一人は腎臓(じんぞう)がんを併発していた。奇形児の出生率は原発事故前の85年に比べると3-4倍も高く、死産も増えているという。昨年の奇形児出産は3件だった。

またモギリョフ州スラブゴロド地区では、85年には11人しかいなかったがん患者が昨年は70人に急増。今年1月から6月までに新たに34人の患者が記録されている。

[北海道新聞] 1989.10.12

断:「モスク・ニュース」

重度の放射能汚染地域が白ロシア共

和国、ウクライナ共和国、ロシア共和国の計9千5百平方キロに及び、放射能総流出量は64億キュリーで「核戦争と同じ状況」との認識が示された。最大の汚染地域となった白ロシアでは、国土の3分の1、農地の5分の1が汚染されたという。

汚染地域で死んだとされるある死者を解剖した結果、肺から放射能による熱粒子が1万5千個も検出されたことを明らかにした。熱粒子は1千個で癌発病をもたらすといわれる。

[毎日新聞] 1989.10.12

断:「モスクニュース」

チェルノブイリ原発事故に関して、隣の白ロシア共和国では住民の間で染色体異常や免疫異常などの人体への影響が確認され、特に汚染地域では貧血症、子供の甲状腺肥大などの病気が増えていると伝えた。

事故発生の責任を問われて87年7月に強制労働10年の実刑判決を受けた前同原発所長ら3人の幹部のうち、既に1人が死亡、1人が重い放射線障害にかかっていると伝えた。

3年半前の同事故で大気中に放出された放射能の量はソ連が公式に発表した5千万キュリーではなく、10億キュリーと明らかにし、64億キュリーと推定する専門家もいると述べた。

[北海道新聞] 1989.10.24 朝刊

成田空港に着いたフランス産キノコ(アンズタケ)から、ソ連チェルノブイリ原発事故の影響とみられる高濃度の放射線が検出されたことが分かった。

[北海道新聞] 1989.10.27 朝刊

札幌市内で販売されていた西独産ジャムなどから、チェルノブイリ事故の影響と見られる放射能が微量ながら検出されたことが、札幌市の調査で分かった。

[電気新聞] 1989.10.27 断:「ソ連」

ソ連白ロシア共和国最高会議は、チェルノブイリ原子力発電所事故の被災者救済計画を採択、同計画の履行は連邦政府が担当することを法案化し、ソ連最高会議に提出することを決めた。

[北海道新聞] 1989.10.28 夕刊

出所:タス通信

チェルノブイリ原発事故が招いた放射能汚染の影響を検討する専門家や当局者のフォーラムがキエフで開かれ、人体に危険な35レム以上の放射能汚染が2060年まで蓄積するとの分析結果が公表された。

[共同通信] 1989.11.1

出所:ソ連労働組合中央評議会機関紙トルード

ソ連児童基金はこのほど、白ロシア共和国モギリョフ、ゴメリ両州の幼稚園児と小、中学生7万3千人以上を避難させる計画を決めた。

[時事通信] 1989.11.3

出所:医学雑誌「ランセット」

「チェルノブイリ原発事故のあった1986年以降、西独南部で新生児の死亡が急増しており、事故による放射能汚染の影響とも考えられる」という内容の報告書が、英国の医学雑誌「ランセット」に、掲載された。

[共同通信] 1989.11.3

出所:ユルノリスカヤ・プラウダ

白ロシア共和国で613市町村の住民を避難へ

[日本経済新聞] 1989.11.6

ソ連は現在チェルノブイリ型原子炉(黒鉛減速軽水冷却炉)の生産を取りやめ、今後は世界の主流になっている軽水炉を建設する方針を打ち出している。

[時事通信] 1989.11.8

出所:「モスクワ・ニュース」

1986年4月のウクライナ共和国チェルノブイリ原発事故で、消火や放射能除去作業に従事した労働者のうち、これまでに250人以上が死亡した。

[日刊APNプレスニュース]

1989.12.5 No.4441

チェルノブイリ同盟という社会団体が設立された。モスクワ、レニングラード、ペロルシア、ウクライナ、チェルノブイリの各地方組織からなっている。チェルノブイリ同盟と関係なく、リトアニアにも同じような団体が設立されている。

[電気新聞] 1990.1.9

出所:ソ連政府機関誌「イズベスチヤ」

ウクライナ共和国政府はこのほど、チェルノブイリ事故で汚染された地域に住む2910家族を新たに立ち退かせ、他地域に移住させることを決定した。

[デイリーテレグラフ] 1990.1.11

チェルノブイリの原発事故以来、時間経過とともに蜂蜜の放射能レベルは少しづつ下がっており、現在キロあたり500ベクレルである。(イタ)

[AFP通信] 1990.1.14

ベネズエラの港湾当局は、放射能汚染された牛肉を積んだギリシア船に警戒を強めている。問題の船は546トンの牛肉の缶詰を積んでいるという。

[AFP通信] 1990.1.15

チェルノブイリの子供たち51人が、治療のためエルサレムに到着した。子供たちは、5才から14才で様々な血液の病気にかかっており、髪が抜け落ち貧血症であるという。

[日刊APNプレスニュース]

1990.01.17 No.4465

ペロルシアで策定されたプログラム

による緊急措置だけでも、向こう6年間に170億ルーブルの出費が必要となる。

ベロルシアでの汚染状況は相変わらず深刻で、農地の18%以上が汚染されているが、そこには2697の集落があり、200万人を超える人々が住んでいる。

[UPI通信] 1990.1.23

赤十字の調査チームが明らかにしたところによると、チェルノブイリの事故による住民間で心理的不安は今だに深刻であるという。

[UPI通信] 1990.1.24

チェルノブイリの原発事故で出来た石棺を再び補強する必要があるという。これは、石棺内で未だに化学反応による発熱が起きているため。「直径13メートル、重さ2千トンの棺のふたを再強化することが緊急の課題である。」とのこと。

[デイリーテレグラフ] 1990.2.3

心臓に致命的な欠陥を持つ幼児が、手術のためソ連から空路ロンドンに到着した。母親は、「子供の病気はチェルノブイリの原発事故が原因。」と話している。

[共同通信] 1990.2.14 断:モスクワ

白ロシア共和国モギレフ州で、チェルノブイリ原発事故による放射能汚染の実態を当局が隠してきたとして、州政府、党指導者の即時辞任を求める数万人規模のデモが数日間にわたって続いている。

[タス通信] 1990.2.16

ソビエト最高会議委員であり作家のユーリ＝シチェルバークは、将来を討議する円卓会議でチェルノブイリ原発の閉鎖を呼び掛け、そして絶対に安全な原発が開発されるまでソ連国内の原

発建設を5年間停止することを提案した。

[クーリア(オーストリアの新聞)]

1990.2.17

●人口1000万人を有する白ロシアの国土の半分が放射能に汚染されている。

●220万人が放射能のペストに冒されている。

●ここ数カ月のあいだに、ミンスク周辺で6000人が甲状腺ガンで死亡した。

●30万人が汚染された郷里を離れなければならない。

[ラ・ジェネラリスト(フランスの医学雑誌)]

1990.2.20

チェルノブイリの時報 医学博士リー・ベッカー医師の報告

ウクライナ共和国のスビゲンコ保健大臣は、「6000人以上の児童が甲状腺に200レム以上の被曝を受けました。誠実な専門家なら、これを危険でないと言える人はいないはずです。・・・」

プリピャチ市の母親の会代表は、「・・・私が代表をしている会には会員が3500人いますが、ほとんど全員が障害を持っています。」

小児科医ゲオルギエフスキー博士によると、ルギーネ村の14才未満の児童530人のうち、甲状腺過形成の見られる児童は212人にのぼると見られている。

1987年末まで(約20ヶ月)サイト内で従事した1500名の作業員グループにいた人の中で、今日80名以上が死亡しており、生存している人もほとんどが疾患を持っている。とくに目立つのは循環器系の障害である。

ナロージチ地区では、40匹もの怪物のような小豚や、頭が2つある小牛、脚が8本あるポニー、脚が6本のヒツジ、その他さまざまの发育不全がある。彼らの地区では、痘疹のない子どもが

一人。頭髪のない子ども一人。小頭症一人、無脳症一人、チェルノブイリに派遣された兵士の息子に13番トリソミー症児一人が生まれている。心配するなど言うほうが無理だろう。チェルノブイリから3年半、6代目の小豚からこうなったことを、彼らは知っている。彼らは自分たち人間の子孫への影響は、まだ始まったばかりなのではないかと考えている。

現地を訪れたカナダ人科学者ロザリーバーテルは「チェルノブイリ周辺に住み、事故当時妊娠していた女性1000名のうち、出産した者はわずかに65名で、この65名の出生児のうち生存しているのは37名とみられる」とのべている。

[UPI通信] 1990.2.22

出所:ブルガリア国営通信社BTA

ブルガリア南東部に住む女性が頭を二つ持つ赤ん坊を生んだ。二番目の頭は、普通の幼児の頭についたようになっており、「よく知られた奇形の事例」で「耳や目、鼻などはないが独自の脳を持っている」とこの赤ん坊をとりあげた医師の話伝えてる。

[UPI通信] 1990.2.22

白海に面するソビエトは北極圏の都市アルハンゲリスクで、住民の反対運動により原子力発電所の建設が中止になったとタス通信が伝えている。

[タス通信] 1990.2.22 出所:イバスタ紙

人民代表会議のモギレフ地方委員会の緊急会議が開かれモギレフを災害地域として宣言した。

[赤旗] 1990.02.23

ソ連のウクライナ共和国最高会議は20日までに、1986年に史上最悪の原発事故を起こしたチェルノブイリ原発の全面閉鎖を求める決議を採択した。

[毎日新聞] 1990.02.23 出所:タス通信
ソ連・ボルガ川流域のボルゴドンスク近くに建設されたロストフ原子力発電所の操業開始が、環境への影響調査が完了するまで延期されることになった。

[日刊APNプレスニュース]

1990.02.26 No.4511

ソ政府はできる限り速やかにセミパラチンスク実験場についての最終提案を最高会議に提出しなければならないことになっているが、その間にも現地では集会やデモが盛んに行われ、“ネバダー—セミパラチンスク”民間外交運動の動きも活発だ。

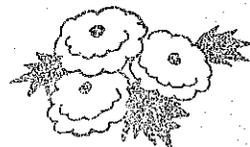
実験場周辺及びセミパラチンスク市で、乳幼児、児童、住民全体の死亡率や、先天性精神薄弱、奇形の出現率、精神病の発病率、自殺の件数が増えている。

セミパラチンスク州内の平均寿命が最近の20年間に3年だけ短くなっていることも確認された。被検診者の半数に、免疫系の弱まりが認められた。一部の医学者はこの現象を“セミパラチンスクのエイズ”と呼んだ。そしてもう一つ、腫瘍性疾患の増加は広島、長崎の同様のデータと符合している。

[チェルノブイリの映画、

新作2本封切りへ] 1990.2.27

チェルノブイリ原発事故の災害と後遺症を新しい2本の映画が語り続ける。弔いの鐘は誰のために鳴るか聞くな」そして「鐘は汝のために鳴る」の2本の新作映画がモスクワで今日封切りとなった。



[タス通信] 1990.3.7

チェルノブイリの災害は、当初予想されたよりも広い地域におよんでいる。白ロシア共和国は、あの原発事故で国土の7割が影響を受けた。合計220万人の住む27都市と2697の村々が放射能汚染地域に点在している。そしてこの5分の1以上の人々の生命と健康が危険にさらされている。

これから5年以内に汚染洗浄のため526カ所の居住地域から11万8千人以上を避難させなければならない。

[タス通信] 90.3.13 出所:ワウダ

アメリカとカナダ在住のウクライナ出身の人々によって集められた82トン以上の薬、ビタミン剤、医療機器、食糧、衣服などがキエフに届けられた。しかし、驚いたことにその貨物のなかにイボフの新聞社宛にコピー機10台が入っていた。

[北海道新聞] 1990.3.17 朝刊

「白ロシアで白血病の子供が急増しています。瀕死の子供達を助けて」
ソ連・ウクライナ共和国のチェルノブイリ原発事故4周年を前に、白ロシア共和国での放射能による深刻な健康被害を訴える一通の手紙が、ソ連の数学者から名古屋工業大学の山里真・助教授に届いた。

[イズベスチア] 1990.3.26 86号

「破滅」(カタストロフ)チェルノブイリの教訓から何を学ぶか?
白ロシア共和国では、事故の損害対策に180億ルーブルを計上している。一平方キロメートル当たり放射線量が1キュリーをこえる地域に220万人(白ロシアの人口の5分の1)住んでいる。1平方キロメートル当たり15キュリー以上の放射能汚染の地域には498の集落があり、その中に10万2千人が住んでいる。しかもそのうちの3万人以上が子供です。624平

方キロメートルの地域で40キュリー以上の放射能汚染があり、その中に85の村があって1万2千人が住んでいる。

[タス通信] 1990.3.28

トロントを中心としたロシア系カナダ人の連合会は、「チェルノブイリ児童」基金への募金を始めた。彼らは、レーニンにちなんで付けられたロディナ(母国)協会とその児童基金の代表者たちと会い、快く救援への訴えに答えた。

[日刊APNプレスニュース]

1990.3.29 No.4515

ブリャンスク州西部の7地区の5800平方Kmが汚染されたが、この地帯には合計641の集落があり、約29万人が住んでいる。カルーガ州では汚染のレベルはずっと低いが、それでも放射性降下物におおわれた面積はほぼ4000平方Kmもあり、4地区159の集落に3万6000人余りの住民がいる。

許容線量をオーバーする恐れのある地域から、31集落4725人を1992年までに移転させる。この数字が今後増えることも十分ありうる。

汚染レベルが15キュリー/平方Kmを上回る地域は特別に厳重な監視下に置かれている。いま、そこには276集落があり、11万5600人が住んでいる。

[タス通信] 1990.3.30

出所:トルド(trud)紙

チェルノブイリ原発事故での被爆者たちがハリコフの医療放射線研究所でハンストを続けているとトルド紙が伝えている。

[共同通信] 1990.3.30

キューバからの報道によると、チェルノブイリ原発事故で放射線障害に苦

しんでいるソ連の子供139人が29日夜、治療のため空路キューバに到着した。

〔電気新聞〕 1990.3.31

出所：ウォールストリートジャーナル(欧州版)

チェルノブイリ原子力発電所事故による損害額が、2000億ルーブル(公定レートで3300億ドル)規模に達する事がソ連専門家の研究で明らかになった、と報じた。これは、事故発生直後にソ連政府が推定した損害額100億ルーブルの20倍で、88年末のアルメニア大地震の被害を大幅に上回る。

〔日本経済新聞〕 1990.4.3

ソ連の被爆者を救え。グラスノチスの進むソ連で、チェルノブイリ原発事故や核実験の放射線汚染が住民に白血病などの健康障害を引き起こしていることが明らかになったため、原水禁広島県協議会は、医療器具などを贈るための募金を全国に呼びかけている。ソ連へのこのような募金活動は初めて。

〔フィナンシャルタイムズ〕 1990.4.4

1986年のチェルノブイリの原発事故の結果、白ロシアとウクライナで何千もの死者が出ると2つの共和国から来たソ連科学者らが警告している。

ミンスクの白ロシア国立大学の放射線生物学教授、オレグ＝ザディオ氏は、「世界は、白ロシアが核による大量虐殺にさらされていることを知らなければならぬ」と語った。

〔W I S E〕 1990.4.6

グンドウーラ・バーロ博士の報告「事態は悪化している・・・」

放射能はウクライナのみならず、ロシア共和国をも脅かし、11の地区で1700万人(そのうち子供が250万人)が影響を受けている。そして、白ロシアの4分の1も汚染されている。

白ロシアの420の村は、事故後直ちに避難するべきであった。

チェルノブイリ圏では2700～3000万人の人々が深刻な病気にかかっており、1700万人が被害を受けている。そして100万人がすでに遺伝的障害をこうむっている。

〔電気新聞〕 1990.4.7

チェルノブイリ原子力発電所事故で、放射性物質が大量に流れ込んだドニエプル川流域の汚染が今後長期間続き、資源利用が大幅に制限される—という研究結果が、同共和国水性生物学研究所で明らかにされた。

〔UPI通信〕 1990.4.8

チェルノブイリ事故の救援と除染に参加した4000人以上の労働者たちが、医療や待遇の改善を要求して「被曝者連盟」を結成した。

〔TIME〕 1990.4.9

放射能除去や失われた大地と生産物の価値まで含めたチェルノブイリ原発のコストは、3580億ドルと算出された。

8つの足、変形した低いあご、背骨が一つにつながっていない雄の子馬が生まれた。197の弱った雄牛が生まれていた。その中には目のないもの、頭蓋骨が変形しているもの、口が曲がっている家畜もある。

約200の奇形の子豚が生まれてきた。

〔タス通信〕 1990.4.12

24時間テレビマラソンショー「チェルノブイリ」は、チェルノブイリ原発事故で被害を受けた人々に物心両面の援助をするためにおこなわれるものである。

〔タス通信〕 1990.4.14

チェルノブイリの子供たちを助ける

ための特別口座がアメリカでも有数のケミカル銀行に開設されることになった。

〔朝日新聞〕 1990.4.29 朝刊

ユーリ・シチェルバク・ソ連最高会議核・環境問題小委員長は27日、朝日新聞とのインタビューに応じ、チェルノブイリ原発事故で同原発労働者600人の死亡率が、がんも含めて以前の10倍に跳ね上がったことを明らかにした。

同委員長によると、放射能を大量に浴びた人は150万人に上る、という。

〔朝日新聞〕 1990.4.29 朝刊

チェルノブイリ原発事故直後に、4日間現場上空をヘリコプターで飛んだソ連人パイロット、アナトリー・グリシェンコさんへの骨髄移植が27日、国際的な協力によりフレッド・ハッチンソンがん研究センターで行われた。

〔サンデー・タイムス〕 1990.4.29

エリツィン・ソ連人民代議員は、1986年のチェルノブイリ原発事故発生後、ソ連共産党政治局会議が事故の重大さを隠す決定を全員一致で行っていたことを明らかにした。

〔デイリー・テレグラフ〕 1990.4.29

シチェルバクは、ソ連最高会議で300人死亡したと主張したが、研究者たちは数字がごく小さなものだと述べている。白ロシアの民間団体である「チェルノブイリの子供たち」は、白ロシアで200万人が危険な状態と述べている。一方ウクライナでは100万人、ロシア共和国では30万人以上が汚染された場所で働いているという。

〔ザ・サンデータイムズ〕 1990.4.29

チェルノブイリ事故の明らかな証拠は、生まれて来た子供たちがその深刻さをもって示している。足がなかったり、兔唇の赤ん坊、そしてなによりも

沢山の白血病の子供たち。また免疫力の低下による結核などだ。結核は、チェルノブイリの影響として統計の中にも入れられないものである。

〔ロイター通信〕 1990.5.2(4.23)

チェルノブイリ事故による死者は、モスクワ政府が公式発表しているような31人ではなくて、その10倍の300人以上になると語った。

〔デイリー・テレグラフ〕 1990.5.10

チェルノブイリの原発事故の際に除染作業に従事した人々で放射線が関係していると思われる死者は7000人に上っているとソ連の環境問題関係者が明らかにした。

〔モスクワ放送〕 1990.5.11

パノフ・ロシア共和国保健省第一次官は、1986年のチェルノブイリ原発事故による放射能汚染でロシア共和国西部諸州もウクライナ、白ロシア共和国両共和国に劣らず深刻な被害を受けていると述べた。

〔日刊APNプレスニュース〕

1990.5.11 No.4542

原発事故による汚染地域内では汚染された飼料で育てられた家畜を肥育の最終段階で、放射能汚染されていない“きれいな”飼料で仕上げをし、食肉中の放射能濃度を既定値以下に抑えて出荷している。

〔タス通信〕 1990.5.14

オーストリアの会社、トランスノーティックは、ゴメリ市のコイニキ地区にある中央区病院に10万本の使い捨て注射器を贈った。

アラスカのアンカレッジに作られた新しい公的組織「チェルノブイリ同盟USA」には、5ドルから数百ドルの小切手の入った数百通の手紙が届いている。

[朝日新聞] 1990.5.26 夕刊

白ロシア科学アカデミー物理・有機化学研究所のウラジーミル・M・コレシコ教授は、帰国に先立ち本社記者と会見し、白ロシア共和国では今年中に100万人の住民が新たに避難を迫られることになるとの衝撃的ば実態を明らかにした。

[琉球新報] 1990.6.13 夕刊

コラム「話の卵」チェルノブイリの子ら

近着の週刊誌に、「チェルノブイリ」の子供達の姿が特集されている。目がつぶれ眼球が目袋の中に封じ込められた男の子。左足がなく手の指も4本、それもちぢれた女の子は、潤んだひとみで悲しげに見つめている。手も足もちぢれた男の子…腕のつけ根からもぎ取られたような子…頭部の異常肥大の子…。いうまでもなく4年前のあの原発事故後に生まれた奇形の子どもたちだ。放射能の怖さをまざまざと見せつける。

[共同通信] 1990.6.14

ソ連政府は、フィンランドの問い合わせに対し、レニングラード原子力発電所で1975年に重大な放射能漏れ事故があったことを認めた。

[UPI通信] 1990.6.21 ユネスク

チェルノブイリで被害を受けた地域の子供たちが、ボーイスカウト・ガールガイドの招きで西ヨーロッパ15ヶ国にちらばり夏休みをとる、と世界スカウト事務局は伝えている。

これは、ソ連がホストファミリーの受け入れを事務局に申し入れ、ソ連児童基金によって選ばれた13才から15才までの1,235人が受け入れられることになったものである。

[EFE (スペイン) 通信] 1990.7.3

チェルノブイリ原発事故の犠牲となった255人のソビエトの子どもたちが、治療をうけるためにキューバに到着し、カストロ首相が出迎えた。

[朝日新聞] 1990.7.9

白ロシア共和国の放射能汚染地帯に住んでいる住民の肺の中に予想を超えるほど多量に「ホットパーティクル」が存在することがわかった。

[共同通信] 1990.7.12 聾・モスク放送

白ロシア共和国最高会議は同共和国を環境破壊地域に指定し、この決定を世界世論に通達するよう自国の国連常駐代表に指示した。

[朝日新聞] 1990.7.31

原水爆禁止世界大会に、ソ連からセミパラチンスク核実験場の被曝者ら13人が初めて参加する。

[日本経済新聞] 1990.8.3

チェルノブイリ原発事故の被災者に対し、日本船舶振興会が医療を中心に向こう5年間に50億円相当の援助をすることが決まった。



エスター70。イン
みんなが原発から逃げた
ホースをする

この情報はパソコン通信を通して届けてきたものを整理したものです。記事の全文を読みたいひとは、河上までご連絡ください。

(☎ 0946-22-0432)

◆◇ 記録的な猛暑は、毎日のように最大電力を更新し、脱原発派としては少々肩身の狭い思いをしておりますが、皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。私の田舎では、そろそろ野菜の立ち枯れが始まり、ほんとに雨の恋しい日々が続いています。

うだるような暑さのなかで、ようやく支援運動ニュース「チェルノブイリ通信」第一号が出来上がりました。創刊号ということもあり、資料面に多少力点をおいた構成になっているというか、第一号から原稿をカットする訳にもいかず、全部載せてしまったため資料集みたいになってしまいました。第二号からは、資料面だけでなく各地の様々な取り組み、会員の声なども豊富に紹介していきたいと思っておりますので、どしどしお便りをお寄せください。また、ニュースの発行頻度、性格（どのような内容にするのか）等についてのご意見等ありましたら、合わせてお願いします。

◇◆ 支援運動がスタートして一カ月が過ぎ、募金の方も会員の方も少しずつ増えてきました。八月九日現在、支援募金額二八万八六九五円、会員数百十二名となっています。ある人から募金を集めるのですか、それとも会員を募るのですか、と聞かれました。できればどちらもお願いします。会員が増えなければ運動は広がりません。「支援運動の一員」とであるという自覚をもった人たちの幅広いネットワークがこの運動をより大きなものにします。あなたの周りの人たちに声をかけてください。

◆◇ 期間は一年です。九〇年七月か

ら九一年六月までです。いつ会員になられても有効期間は来年の六月までということになります。六月に会員総会を開き、何ができ、何ができなかったのか、次をどうするのかを話し合います。だから、来年七月からまた新たにまた始まる訳です。

◇◆ 各地それぞれ創意工夫ある取り組みをお願いします。「支援運動・九州」といっても、いつも統一して何かできるわけではありません。基本的には各地支援グループ、個人をつなぐネットワーク的なものであり、事務局の機能も情報を収集し整理する、各地の意見を取りまとめ、それに基づいて状況によっては運動を提起する、という事になると思います。情報の発信、リーフレット類の制作は責任を以て行ないますので、その情報を十二分に活用してください。二度とふたたびチェルノブイリの悲劇を繰り返す事がないように。

◆◇ どしどし情報をお寄せください。ご意見をお聞かせください。お便りをお待ちしています。 ふ



ソ連邦原発関係日誌

この原発日誌は、主にソ連国内で報道されたチェルノブイリ関係のニュースを中心に、昨年五月から今年四月までを日誌ふうにとまとめたものです。

今後、継続して「原発日誌」としてお届けしたいと思っています。

1989年

5月21日 全ソ労働組合が、チェルノブイリ原発事故の汚染から健康を守る措置を要求 (トルード)

7月4日 過去に10件の原発事故があったことが報道される (ノーヴィ・ミール)

7月10日 6月における原発の事故件数・実態を報道 (イズベスチヤ)

7月26日 ガサフの核実験場近くで癌性腫瘍が多発と科学実用会議の結果を報道 (赤旗)

7月29日 ベロルシア最高ソビエト、チェルノブイリ汚染で新たに10万人の避難計画を決定。

7月30日 チェルノブイリ後遺症による児童の貧血や衰弱を訴えるベロルシア住民の手紙掲載さる (イズベスチヤ)

8月8日 ソ連が医薬品を日本に大量注文 (朝日新聞)

8月9日 チェルノブイリ事故の放射能危険地域内の住民に癌や白血病が多発と報道 (ソビエツカヤ・ロシア)

8月14日 チェルノブイリ原発事故汚染地域の森林枯れるとの調査結果を報道 (タス通信)

ベロルシアで、チェルノブイリ原発事故の3つの被災地区を特別保護区にし、動植物の変化の追跡調査を決定。

9月15日 中央アジアで地下核実験反対デモ (タス通信)

9月24日 注射器100万本を土産に帰国のエリツインの姿を放映 (国営テレビ)

9月28日 チェルノブイリの「被害総額」5億4千万ルーブリと報ずる (イズベスチヤ)

10月5日 ロシア共和国でもチェルノブイリ事故による児童の疾患が多発と報道 (ソビエツカヤ・ロシア)

10月11日 チェルノブイリ事故めぐり「円卓会議」、当局の対応の遅れや被害の惨状などを告発 (モスクワ・ニュース)

10月27日 ソ連邦政府、住民の反対でクリミア原発の建設中止を決定。

11月2日 カザフのセミパラチンスクなどの核実験場の汚染を告発 (社会主義工業)

11月10日 カザフ共和国政府、セミパラチンスクの核実験場を閉鎖すると決定。

11月14日 カザフ最高ソビエト、セミ
パラチンスクの核実験場を閉鎖する決
議を採択。

11月17日 ルイシコフ、ソ連邦首相、
セミパラチンスクの核実験を最小限に
押さえる方針を表明。

1990年

1月6日 ウクライナ共和国政府が、
チェルノブイリ事故汚染地域からの29
10家族の疎開を決定と報道

(イズバスチヤ)

1月27日 市民の閉鎖要求などで「閉
鎖の危機」、とチェルノブイリ原発の
代表者が記者会見 (イズバスチヤ)

2月20日 ウクライナ最高ソビエト、
チェルノブイリ原発の全面閉鎖求める
決議を採択。

2月28日 バシキールのニフチェカム
スク市で、原発建設に99%が住民投票
で反対と報道 (イズバスチヤ)

4月5日 チェルノブイリ事故の影響
によるドイェプル河の汚染により資源
利用が大幅に制限されるという報告書
が提出される (タス通信)

4月17日 ウクライナ共和国の人民代
議員がゴルバチョフ大統領宛てにチェ
ルノブイリ事故対策を非難する書簡を
送る (インタファックス)

4月25日 ソ連邦最高会議、チェルノ

ブイリ被害者の救済計画を採択。

4月26日 作家のアダモヴィッチ氏、
チェルノブイリ被災者の治療を日本で
も行うようにと訴える (朝日新聞)

4月27日 シチエルバク・ソ連邦最高
会議核・環境問題小委員会委員長、チ
ェルノブイリ事故直後の原発労働者の
死亡は、公式発表の10倍であったと語
る (朝日新聞)



事務局としては、チェルノブイリ関
係の情報をできるかぎり正確に入手で
きるよう、様々な方策を検討していま
すが、とりあえずソ連の新聞を手に入
れようということになりました。日ソ
図書館を通して「ウクライナプラウダ
」「ソビエト白ロシア」の二紙を入手
し、翻訳したものをこの「原発日誌」
と合わせてお届けしたいと思っていま
すので、ご期待ください。

なお、東京にある日ソ図書館は、保
管する文献や資料のコピー・サービ
スを行っており、チェルノブイリ原
発事故関連の新聞、雑誌と限定して
依頼し、コピーを送ってもらうこと
ができます。原発推進派はかなり大
量に資料等を仕入れているようで
すが、反対派は数名の人が利用し
ているに過ぎないと図書館の人が
話しておられました。ただしコピ
ー代・送料で、最近は一ヶ月に
1万円以上かかる模様。同図書館
の維持会員(年会費6千円)になれば、
コピー代は半額になります。照
会は日ソ図書館まで(電話93-429-8238)

● チェルノブイリ支援運動へご参加下さい！

入会するには・一口千円（何口でも可）の会費を納入していただければ誰でも入会できます。期間は1年。

入会すると・・・チェルノブイリ関係の最新情報を満載したニュースやパンフレット類が送られてきます。周りの人に広めてください。

★会費は、基本的に「支援運動・九州」の運営費に充てられますので、送金する際、募金とは区別してお書きください。

★集まった募金については現地と連絡を取り、信頼できる救援組織に送金する。その都度ニュース等を通して報告します。

<p>●問い合わせ先 「チェルノブイリ支援運動・九州」事務局 北九州市小倉南区徳吉東1-13-24 ☎・FAX 093-452-0665 深江守</p>	<p>●募金の送り先（郵便振替） 口座番号：福岡7・65328 加入者名：チェルノブイリ支援 運動・九州</p>
--	--

—各地連絡窓口・世話人—

福岡市	田宮 京子	福岡市南区長住1-2-37	(092-511-0923)
飯塚市	地蔵原 満	嘉穂郡稲築町平982-8	(0948-42-0006)
佐賀市	島 直子	神埼郡千代田町大字託田1157-p	(0952-44-4076)
唐津市	渡辺 勝	唐津市朝日町1071-30	(0955-73-3867)
大村市	富田ちかし	大村市松原2-14-6	(0957-55-7358)
佐世保	佛坂 安恵	佐世保市須田尾町3-2	(0956-33-1847)
長崎市	川原 重信	長崎市石神町10-8	(0958-47-1823)
熊本市	神谷 丈治	菊池郡西合志町須屋1476-13	(096-242-0388)
八代市	松本 秀美	八代市妙見町2237	(0965-32-6107)
水俣市	浜元 二徳	水俣市月の浦	(0966-63-5289)
川内市	川添 房枝	川内市久見町86	(0996-27-3739)
鹿児島	宮地 慶子	鹿児島市下福元町745-1	(0992-67-5744)
宮崎市	山口 一成	宮崎市吉村町今村甲4125-7	(0985-25-2413)
大分市	小坂 正則	大分市高嶺3-5-11	(0975-43-8510)
大分市	池 ゆう子	大野郡野津町板屋	(0974-32-3321)
日田市	井倉 順子	日田市玉川3-660-12	(0973-24-2771)
中津市	須賀聡美子	中津市新博多町2	(0979-22-0963)
遠賀郡	妹川恵美子	遠賀郡声屋町山腰535-4	(093-222-2588)